

目 次

修学旅行にあたって…学校長 小林章一	1頁
① 目的	3
② 目的地・期日・旅館	3
③ 引率の先生と係分担	4
④ 日程	5
⑤ 時程と留意点	6
⑥ 集団生活上のきまり	14
⑦ 係の仕事(生徒)	22
⑧ 参加者名簿・班編成	24
⑨ 見学地の評価	28
⑩ 列車座席・バス編成	29
⑪ 健康観察	31
⑫ こづかい帳	32
⑬ メモ	33
⑭ 部屋割及旅館見取図	35
1. 持ち物チェック	巻末
表紙	稗田 研志

修学旅行にあたって

校長 小林章一

中学校3ヶ年間を通じて、卒業後一番の思い出になるのは、修学旅行である。私がずっと昔の中学校の修学旅行をふりかえっても、今でもはっきり記憶に残っている。修学旅行は本当に楽しいものである。しかしこれにはかなりの費用がかかり、準備を要することだし、先生も父母の方々もいろいろ配慮しているので、よい修学旅行にしたいと念じている。

第一は事故を絶対におこさないことである。ひとりでも小さな事故もおこしてはならない。旅行というものは、どうしても心が浮き浮きする。みんなで気を揃えて、危険なことや無理なことをしないととも、お互いに前々から体調を整えておくようにしたい。

第二は事前の準備をしっかりして、見学するところをよく観察し、説明をきちんと聞いて、それがもっている歴史的意義をじゅうぶん味わっていただきたい。私は毎年修学旅行に参加し、同じところへ何回か回っているが、それでも注意深く観察していると必ず何か新しいものを感じとっている。建造物にしても、仏像にしても、無限の深さがある。準備や見学の態度の如何によって、扱み取り方はうんとちがう。

第三に友達同志、先生と生徒との心のつながりを深めたい。人は寝食をともにすることによって、心のつながりは一段と深くなる。わがまゝをいったり、人に迷惑をかけることのない